



® 平成 30 年 9 月 5 日 (水)
No. 14767 1部370円 (税込み)

発行所

一般財団法人 経済産業調査会
東京都中央区銀座2-8-9 (木挽館銀座ビル)
郵便番号 104-0061
[電話] 03-3535-3052 [FAX] 03-3567-4671

近畿本部 〒540-0012 大阪市中央区谷町1-7-4
(MF天満橋ビル8階) [電話] 06-6941-8971

経済産業調査会ポータルサイト <http://www.chosakai.or.jp/>

特許ニュースは

- 知的財産中心の法律、判決、行政および技術開発、技術予測等の専門情報紙です。

定期購読料 1カ年61,560円 6カ月32,400円
(税込み・配送料実費)

本紙内容の全部又は一部の無断複写・複製・転載及び
入力を禁じます(著作権法上の例外を除きます)。

目次

☆成長戦略に必要な経営理論《知財版》54… (1)

☆特許庁 審査第二部長 審査第三部長就任挨拶 (7)

成長戦略に必要な経営理論《知財版》54

知財人財における“戦略的思考”のケーススタディ (その6:経営に関するセオリー)

正林国際特許商標事務所
所長弁理士 正林 真之

1. はじめに

ー「データのリアリティ」についてー

人間の血液に含まれているブドウ糖の総量を正確に知る人は、そう多くはない。もちろん、人間ドッグで測定する“血糖値”なるものは知っている。それは血中のブドウ糖濃度のことを示しており、健常人では、空腹時に90mg/dlであるのが一般的であり、これが130を超えるくらいになると、立派な糖尿病

ということになる。

けれども、この90やら、130とかの数字に、一体どれだけの意味があるというのだろうか。もちろん意味はある。なぜならば、それが健康のバロメータとなるからである。けれどもそこには、リアリティというものがない。なので、90が130になったところで、血液中にどんな変化が起き、それはどのようなものによってなされるのかが、わからないのであ



特許業務法人 三枝国際特許事務所

大阪オフィス

〒541-0045 大阪市中央区道修町1丁目7番1号 北浜TNKビル
TEL: 06-6203-0941 (代) FAX: 06-6222-1068 e-mail: mail@saegusa-pat.co.jp

社員・副所長 中野 睦子*
社員・副所長 菱田 高弘*

化学・バイオ部

宮川 直之
河合 永文*
北野 善基*
難波 泰明
八木 祥次
桑垣 善行
野村 千澄
松野 陽介
岩澤 朋之*

森嶋 正樹
幸 芳*
淀谷 幸平*
東野 匡容*
兼本 伸昭*
西橋 毅
内藤 勝志
竹本 有貴

機械・電気部

鈴木 由充
鶴 寛
奥山 美保
新田 研太
植田 慎吾
商標・意匠部
松本 康伸*
青木 寛史
小川 雅加美*

知財情報室

関 仁士

SAEGUSA & PARTNERS

代表社員・所長 林 雅仁*
社員・相談役 三枝 英二*

東京オフィス

〒100-0013 東京都千代田区豊が関3-8-1 虎の門三井ビル9F
TEL: 03-5511-2855 FAX: 03-5511-2857 e-mail: tokyo@saegusa-pat.co.jp

社員・副所長・東京オフィス所長 齋藤 健治
社員・副所長 岩井 智子

化学・バイオ部

藤田 雅史
鴻 宗義

商標・意匠部

田上 英二
田中 麻美



*特定侵害訴訟代理可能

www.saegusa-pat.co.jp

る。このため、たいていの人は、「もしコカ・コーラを一本(500ml)飲んだとしたら、この血糖値90が130に跳ね上がると思うか?」という問いに対して、的確な答えをすることができない。

ところが、冒頭に述べた「人間の血液中に含まれているブドウ糖の総量」というと、話は変わってくる。そう、人間の血液の全てを取り出して、そこからブドウ糖だけを抽出したとしたら、いったい何グラムのブドウ糖が含まれているか、ということである。知識レベルの高い特許ニュースの読者に対してこんな簡単な算数の問題みたいなものを出すのは本当に気が引けるのだが、ご容赦いただければと思う。そう、何のことはない。人間の血液の全量である45リットルに90mg/dlの濃度を掛ければよく、 $45\text{dl}(=45\text{リットル}) \times 90\text{mg/dl} = \text{約}4000\text{mg} = \text{約}4\text{g}$ と出てくる。人間の血液中に含まれているブドウ糖の総量は約4gである。

これを「多い」と感じるか、「たったそれだけ?」と少なく感じるかは、各個人の感覚に任せたい。けれども、コカ・コーラの一本(500ml)の中には、ブドウ糖に換算すると11.3gもの糖分が入っているということを考えれば、先の「もしコカ・コーラを一本(500ml)飲んだとしたら、この血糖値90が130に跳ね上がると思うか?」という問いに対して、ほぼ的確な答え方ができるのではないだろうか。

このように、この「人間の血液中に含まれているブドウ糖の総量は約4gである」というのが、数字に対するリアリティというものである。そして、そのリアリティさえあれば、たいていのことは的確に予想することができる。例えば先の例で言えば、コカ・コーラを一本(500ml)飲んだとしたら、人間の全血液中に含まれるブドウ糖総量の約3倍もの糖分が一気に体に入ってくるわけである。このリアリティをもってして、「血糖値90は130に跳ね上がらない」と結論することは、相当に困難であると思う。通常であれば、「130どころか、200以上になるんじゃないか…」と思うところである。

もちろん、人間の体というのは、そう単純なものではない。摂取された糖分がすべてそのまま血中に入るわけではないし、血糖値が上がったら上がったで、それを抑制するシステムがある。インシュリンである。血糖値(血液中の血糖濃度)が上がれば、膵臓からインシュリンというホルモンが分泌され、それが血糖値を下げるように作用する。けれども、体の血液の全量に含まれている糖分の3倍以上のものが急に摂取されたとなれば、それはもう、異常事態である。この異常事態に対処するためには、インシュリンの分泌も異常事態にならざるを得ない。こうして、

ただコカ・コーラをガブ飲みしただけで、実際の人体の中ではどのようなことが起こっているかが、リアリティを持って想像されることにより、「本当はどうすればよいのか」ということが明らかになってくる。

これは実は、特許情報解析や経営分析を行う際にも極めて重要なことであり、「ゆるぎない正確な情報」を取るのももちろんのこと、それがリアリティを伴ったものであるということは、何にも増して重要なことなのである。もしそれがないとすれば、その事態の重要さを経営者に感じてもらうことはできない。感じてもらえなければ、経営者は動かない。これが今、知財人材が経営に関われるか否かということを議論するにあたっては、非常に重要なものとなっている。

2. 「正確な知識」でかつ「リアリティを持った情報」

また、こういった「正確な知識」でかつ「リアリティを持った情報」というのは、次に与えられた情報が正しいものなのかどうかということを判断する際にも役立つ。例えば、「食事制限が嫌なら、糖尿病用の薬を…」ということ、血糖値を下げるための薬を処方されたとする。果たしてそのアイデアに乗っていいものなのであろうか。もちろん、つらい食事制限をせずに、ただ単に薬を飲むだけで痩せられたり、糖尿病が治ったりするのであれば、それに越したことはない。

けれども、ちょっと考えてみて欲しい。もしその糖尿病の薬(血液中の糖分を積極的に排出させてしまうことにより、血糖値を下げる薬)が効きに効いて、全身の血液中の全ての糖分が抜けてしまったとしても、その効果は約4グラムである。むろん、血糖値がゼロになれば生きてはいけなから、出たとしても1グラムか2グラムぐらいではなかろうか。けれども、そんな程度のもに手間暇をかけるようなら、約11グラムが体内に入ってくるのを防止したほうがよほど効果的であるのは、火を見るまでもなく明らかである。

「運動したら、どうか」。そう言う声も聞こえてきそうである。そう、糖質1グラムは、約4キロカロリーの熱量(エネルギー)に換算される。11グラムなら440キロカロリーである。70Kgの男性が早足で1時間歩いて250Kcalの消費、1時間階段の昇降をして320 Kcalの消費だと言われているので、コカ・コーラを1本飲んだとしたら、約1時間半の階段昇降をすれば、その分が消費できることになるわけである。よほどゆっくり飲めば別であるが、コカ・コーラを1本飲むのに、1時間半はかからないだろう。となれば、どう考えても、運動で消費するよりも、